

シグマ研究専門委員会・軽・中重核W.G.議事録

日 時 : 昭和55年1月9日 13:30-17:30

場 所 : 原研東海研究所 研究2棟322号室

出席者 : 神田(九大), 菰田(阪大), 八谷(三井造船), 村田(NAIG),
山越(船研), 浅見(哲)(原研), 杉(原研), 関(原研)
西村(原研), 中島(豊)(原研), 田中(原研)

配布資料

1. IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Fusion Reactor Technology INDC (NDS) - 101/LF (送付) (浅見より)
2. ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$ の評価値のグラフ (菰田より)
3. 核融合炉材料試験用中性子源 (神田より)
4. 核データ専門部会連絡会資料55.1.10 五十嵐 (田中より)

議 事

1. 前回議事録確認
2. 一般報告 (田中)

運営会議における主な議題, 特に JENDL-3 の検討のために, 小委員会を作ることになり, その準備として原田委員及びCGグループ員が講演者を呼んで, その準備のための勉強会を行っている旨の報告があった。来年度のW.G.の作業計画(人員を含む)を作成し, その検討が, 近く運営委員で行なわれる。

3. 講演「FMIT の中性子スペクトルと中性子核データ」に関して, 神田氏より資料3に基き講演がなされた。材料照射用には14 MeV 中性子に限る必要がなく, broad なものでよいこと, $(n, x\alpha)$ 反応断面積が特に重要であることなどの話があった。
4. INDC (NDS) - 101/LF の検討 (関)

資料1に基づき, この会合の出席者関氏より, この報告書が作製されるま

での経緯を含めて、核融合炉開発のための、必要な中性子核データが述べられた。

5. 評価作業報告

その後の JENDL - 2 用の評価の進行情況または評価結果が報告された。要約は次の通り。

神田 : Mo アイソトープのしきい値反応, 計算が遅れて今回は報告出来ない。2 月中には結果を出したい。

孤田 : 資料 2 に基づき ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$ の弾性散乱断面積などの計算法とその結果の紹介がなされた。

杉 : ${}^{19}\text{F}$ の共鳴領域の評価を現在行っている。核データセンターのプログラムを使うことが薦められた。

八谷 : Ca アイソトープの作業をすすめている。

6. 来年度作業計画 (全員)

核データ専門部会では JENDL - 3 の作成開始の時に当って、データの質の向上を目指して、W.G. の編成がえを考えている。(資料 4) そのときに、当グループは今後の在り方と計画をどのように考えるか? という問題が提起された。

それに対して、当グループは核融合炉核データを整備する役目を持ったグループであり、その整備は未だ終了していない。むしろ今後さらに仕事を進める段階にある。従って、グループとしては、継続すべきであるという一致した見解が結論された。この見解を翌日予定されている。「核データ専門部会連絡会」に呈出することになった。

以上